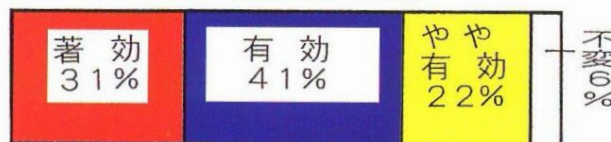


変形性腰椎症 (40例)



平均治療回数 5.6, 平均治療期間 35.9日

筋・筋膜性腰痛症 (64例)



平均治療回数 4.1, 平均治療期間 26.7日

図3 変形性腰椎症と筋・筋膜性腰痛症の治療効果の比較 (ペインスケールによる評価)

の評価によると、変形性腰椎症では有効以上が78%、筋・筋膜性腰痛症では有効以上が72%を占めた(図3。評価基準は図1と同じ)。

3. 神経学的所見と鍼灸治療効果について⁵⁾

【概要】 深部反射、知覚、筋力の3種の神経学的検査の異常を認めた腰痛40症例(検査異常群)と異常を認めない107症例(検査正常群)の鍼灸治療の効果を比較した。治療方法は2に示した方法とほぼ同様に週1~2回行った。

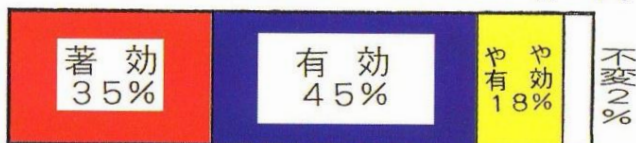
治療効果はペインスケール法を用いて1、2と同

神経学的検査正常の腰痛群 N=107



平均治療回数 2.8, 平均治療期間 9.8日

神経学的検査異常の腰痛群 N=40



平均治療回数 4.7, 平均治療期間 16.4日

図4 腰痛の鍼灸治療効果(最終治療効果)

【参考文献】

- 1) 松本 勲, 他: 明治鍼灸大学附属病院整形外科における鍼灸治療の成績。第3回世界鍼灸学会抄録集: 407, 1993.
- 2) 松本 勲, 他: 疼痛対策としての鍼灸治療。別冊・整形外科, 27: 73~77, 1995.
- 3) 石井 努, 他: 変形性腰椎症に対する鍼灸治療の効果。全日鍼誌, 44(3): 244~248, 1994.
- 4) 池内隆治, 他: 筋・筋膜性腰痛症に対する運動療法とSSP療法を併用した鍼灸治療の効果について。明治鍼灸医学, 8: 15~20, 1991.
- 5) 池内隆治, 他: 腰痛の鍼灸治療に関する研究(第2報) - 神経学的所見と鍼灸治療効果について -。明治鍼灸医学, 7: 21~26, 1990.
- 6) 田辺成蹊, 他: 根性坐骨神経痛に対する鍼灸治療の効果。全日鍼誌, 34(3,4): 242~245, 1985.

様にこの数値の改善度から著効、有効、やや有効、不変に区分した。神経学的検査正常群は平均治療回数2.8回、平均治療期間9.8日で、有効以上が89%であったのに対し、検査異常群は治療回数4.7回治療期間16.4日で、有効以上が80%であった(図4)。この結果から検査異常群においてやや多くの治療回数と治療期間を要し最終治療効果も若干劣ることが明らかとなり、神経学的検査の実施は病態把握の一助となるだけでなく治療経過の予測に役立つことがわかった。

4. 根性坐骨神経痛に対する鍼灸治療の効果⁶⁾

【概要】 根性坐骨神経痛患者32例、年齢25~70歳、平均48.2歳(男性20名、平均48.6歳;女性12名、平均47.8歳)に対し、症状に対応する華佗夾脊穴への中国針(太さ0.32~0.34mm、長さ40~50mm)による15分間鍼通電と八髎穴への刺鍼を行い、さらに補助穴として腎俞、氣海俞、大腸俞、腰眼、環跳、委中、承山、崑崙、陽陵泉等に刺鍼した。治療は週に1~2回行った。

評価は痛みの程度によって4段階にスコア化し、スコアの改善の程度によって効果を著効、有効、やや有効および無効に分類した(表2)。

その結果、有効以上は50%であった(表3)。手術既往の3例はすべて無効であった。また有効例では効果が早期に出現し短時間で終了することがわかった。

表2 効果判定基準

	スコア
日常生活に支障のある強度なもの	3
就労・歩行が困難な中等度のもの	2
軽作業が可能な軽度のもの	1
症状のないもの	0

初診時-治療後スコア = 3: 著効
2: 有効, 1: やや有効, 0: 無効

表3 治療効果と治療回数

	人数 (%)	平均回数
著効	2 (6)	5.0
有効	14 (44)	5.9
やや有効	11 (34)	8.7
無効	5 (16)	9.8